

【目的】鏡川ダムへの流入量を、気候変動シミュレーション（CMIP5）と水エネルギー収支分布型モデル（WEB-DHM）を用いてどの程度上昇するのか、8月・9月、鏡川上流・下流別に調査比較を行った。

【結果】CMIP5 から抜き出したデータの現在と過去の降水量の比率は8月に約 1.12 倍となった。また、近未来のデータの7年間移動標準偏差の平均は、2005 年に 0.22 であったのが、2055 年には8月に 0.55 となった。これは現在と比較して降水量が 1.12 倍になるだけではなく、渇水や豪雨といった極端現象が頻繁に起こるといふ予測である。WEB-DHM の洪水予測には 2014 年 8 月 3 日の台風を基にシミュレーションを行った。結果、1.12 倍の時は現実より 1 時間早くダムの貯水量が 8 割を超え、1.5 倍の時には 4 時間も早く 8 割を超えた。

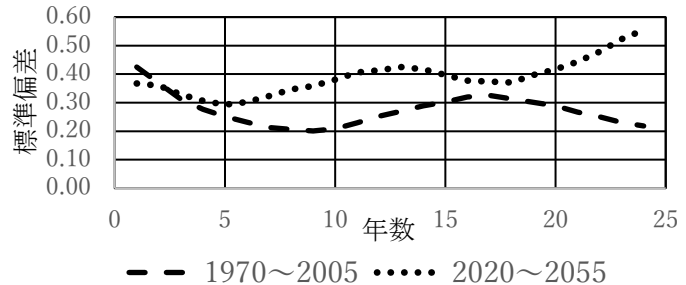


図1：8月の鏡川下流の未来と過去の7年毎の標準偏差の移動平均